



Research, Service, Technology を追求していきます

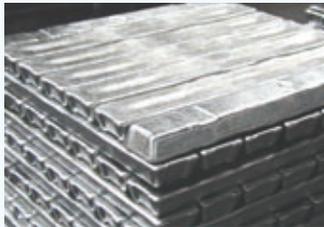
アーレスティは、R・S・T〈Research〉〈Service〉〈Technology〉という三つの言葉の統合です。Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

アーレスティの事業



ダイカスト

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を生産しています。



アルミニウム合金地金

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を生産しています。



完成品

コンピュータールーム、クリーンルームなどにおける最新のニーズにお応えする製品を開発・提供しています。

Contents

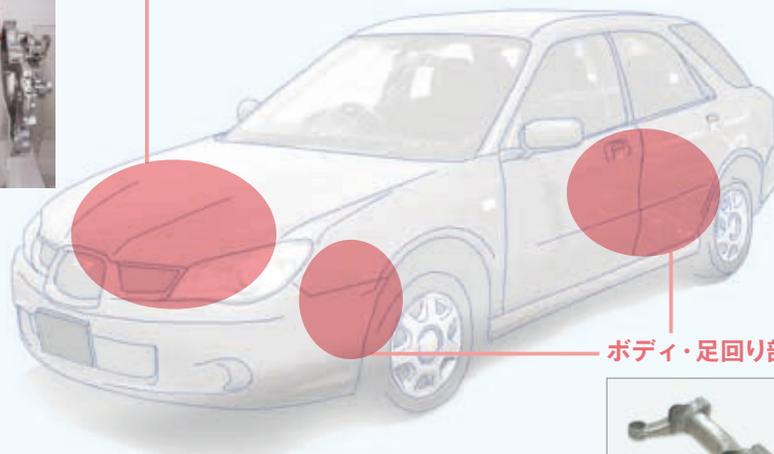
トピックス	3	グローバル展開	9
連結財務ハイライト	4	事業の概況	11
株主・投資家の皆様へ	5	企業の社会的責任	15
本部長メッセージ	7	企業情報／株式情報	18

私たちは、ダイカストのリーディングカンパニーです。

アーレスティは、自動車のエンジン、トランスミッションなどを中心に、様々なダイカスト製品を製造しています。近年では、自動車の軽量化ニーズに伴い、ボディ・足回り関連部品のダイカスト化を積極的に推進しています。

パワートレイン

- エンジン
- トランスミッション



ボディ・足回り部品



あゆみ

- | | |
|---|---|
| <p>1938年 6月 ● 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、
アルミニウム砂型鋳物の製造を開始</p> <p>1943年 11月 ● 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、
アルミニウム砂型鋳物の製造を開始</p> <p>1960年 3月 ● 株式会社日本精密金型製作所(現:株式会社
アーレスティ ダイモールド浜松)を設立
7月 扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始(現:東海
工場(浜松))</p> <p>1961年 10月 ● 扶桑軽合金株式会社の株を東京証券取引所
第2部に上場</p> <p>1962年 4月 ● 東海精工株式会社(現:株式会社アーレスティ
プリテック)設立</p> <p>1963年 3月 ● 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場
(現:東海工場(豊橋))操業開始</p> <p>1971年 3月 ● 栃木フソー株式会社(現:株式会社アーレスティ
栃木)を設立</p> <p>1972年 3月 ● 株式会社ダイテック(現:株式会社アーレスティ
ダイモールド栃木)を設立</p> <p>1976年 9月 ● 熊本フソー株式会社(現:株式会社アーレスティ
熊本)を設立</p> <p>1981年 3月 ● 株式会社ダイテック熊本工場(現:株式会社
アーレスティ ダイモールド熊本)操業開始</p> <p>1984年 7月 ● 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始
8月 扶桑軽合金株式会社東松山工場操業開始</p> <p>1985年 5月 ● バスカル販売株式会社(現:株式会社アーレスティ
テクノサービス)を設立</p> | <p>1988年 6月 ● Ahresty Wilmington Corporationを設立
10月 社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アー
レスティに変更</p> <p>1989年 10月 ● 株式会社アーレスティ'89年度デミング賞
実施賞(中小企業賞)受賞</p> <p>1997年 2月 ● Thai Ahresty Die Co., Ltd.を設立
3月 株式会社アーレスティISO9001(建材)
認証取得
株式会社アーレスティISO9002(ダイカスト・
アルミニウム)認証取得</p> <p>2001年 3月 ● 株式会社アーレスティISO14001認証取得</p> <p>2002年 7月 ● Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.を設立</p> <p>2003年 8月 ● 広州阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
10月 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アー
レスティが合併
11月 第20回素材産業技術表彰にて「経済産業大臣
賞」受賞</p> <p>2005年 3月 ● 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司を設立
4月 バスカル工業株式会社と菅原精密工業株式会
社が合併し、社名を株式会社アーレスティ山形に
変更
6月 本社を東京都中野区中央に移転</p> <p>2006年 6月 ● Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.を設立
9月 テクニカルセンター開設</p> <p>2007年 1月 ● Ahresty India Private Limitedを設立</p> <p>2010年 8月 ● 合肥阿雷斯提汽车配件有限公司を設立</p> <p>2011年 4月 ● 浜松工場と豊橋工場を統合し、東海工場として再編</p> |
|---|---|

【国内】

2013年3月を目処に浜松工場と豊橋工場を統合

リーマンショック以降、国内ダイカスト需要は大幅に縮小しており、中長期的には更に縮小することが予想されるため、特に生産能力の余剰が予想される東海地区に位置する浜松工場および豊橋工場を統合することを決定しました。2011年4月には両工場の組織を統合し、2013年3月を目処に豊橋工場を母体とした東海工場として再編します。国内で余剰となる生産能力は、今後成長が期待される海外工場に充当します。



【アジア】

中国ダイカスト生産拠点の拡張

合肥阿雷斯提汽车配件有限公司は、中国第二のダイカスト生産拠点として2010年8月に設立、2011年7月に稼働を開始しました。なお、中国国内の旺盛な需要に対応するため合肥工場の第2期工事（加工工場）および、広州阿雷斯提汽车配件有限公司第2工場の拡張工事（第2期工事）を進めています。

合肥工場（建屋面積）
第1期 6,656㎡
第2期 7,851㎡
(2012年3月竣工予定)
計 14,507㎡

広州第2工場（建屋面積）
第1期 7,142㎡
第2期 3,082㎡
(2011年5月竣工)
計 10,224㎡



合肥阿雷斯提汽车配件有限公司



合肥工場内

広州金型新工場完成

阿雷斯提精密模具（広州）有限公司は、広州阿雷斯提汽车配件有限公司の同一敷地内から近隣への移転を計画し、2010年7月に新工場が完成し、同年11月に開所式を行い、稼働を開始しました。

(建屋面積)
第1期 2,679㎡
第2期 1,830㎡
(2012年2月竣工予定)
計 4,509㎡



インド工場の拡張

Ahresty India Private Limitedは操業2年目ながら順調に成長しており、引き続き売上の拡大を目指し、第4期拡張工事を進めています。

(建屋面積)
第3期まで 8,262㎡
(2010年10月竣工)
第4期 3,232㎡
(2011年9月竣工予定)
計 11,494㎡



【北米】

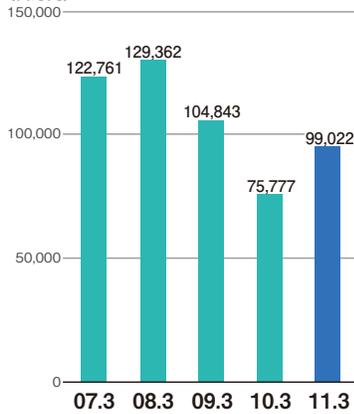
メキシコ工場拡張、金型工場新設

Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.は、2007年の操業開始以来、順調に成長、拡大をしており、2010年8月には铸造棟の増築（3,010㎡）を行いました。また、コスト競争力強化のため、金型製造の現地化を目指し、2010年9月には金型製作工場（2,004㎡）を新設し同年12月に稼働開始いたしました。

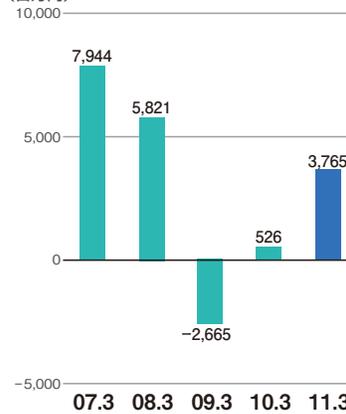


連結財務ハイライト

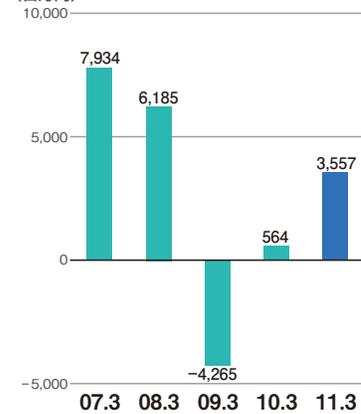
売上高
(百万円)



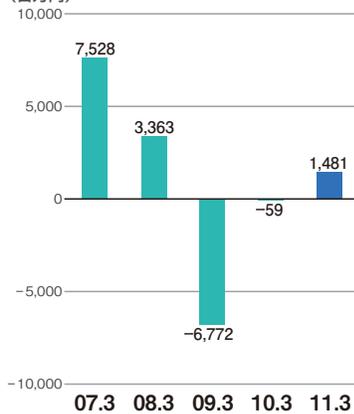
営業利益
(百万円)



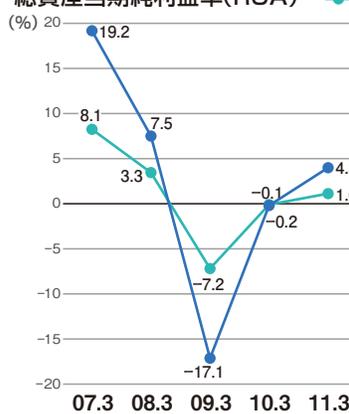
経常利益
(百万円)



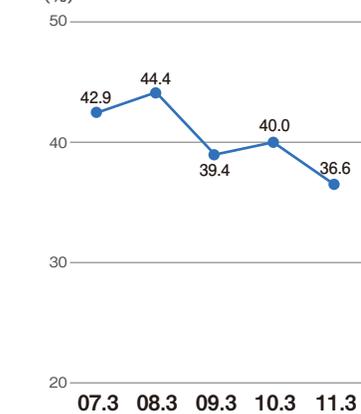
当期純利益
(百万円)



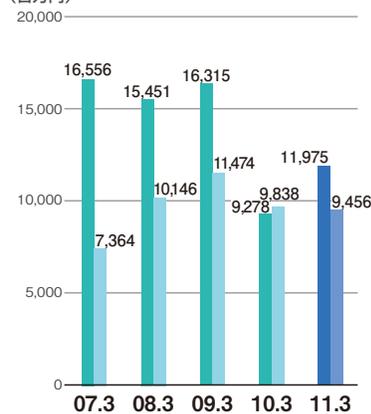
自己資本当期純利益率(ROE)
総資産当期純利益率(ROA)



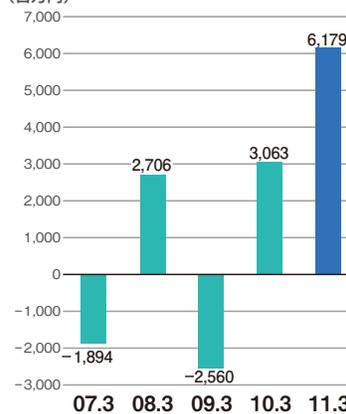
自己資本比率
(%)



設備投資額^{※1} / 減価償却費^{※1}
(百万円)



フリー・キャッシュ・フロー^{※2}
(百万円)



1株当たり当期純利益
(円)



※1 金額は金型を含みます。 ※2 フリー・キャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュ・フロー - 設備投資額 (金型を除く)

お客様に信頼されるグローバルパートナーを目指して



2011年3月11日の東日本大震災で被災された多くの皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

2010年度は、リーマンショックから回復し東日本大震災発生までは順調に推移しておりました。3月11日以降の生産激減の影響があったものの連結売上高は990億円となりました。主要事業のダイカスト生産は国内外共に増加しました。特に海外の売上増加が顕著で、ダイカスト事業の売上比率では海外が30%（2009年度は23%）となりました。今後もこの傾向は継続し、2012年度のダイカスト海外売上比率は約四割になると思います。

アーレスティでは、縮小する国内需要、拡大する海外需要に対応するため国内生産拠点の最適化と海外生産拠点の強化を推進しております。

国内の最適化として浜松工場と豊橋工場を一体化する事を決定し、物理的な統合に先立ち組織を一体化し今年4月より東海工場として一体運営を開始いたしました。現在豊橋地区への集約にむけた工場建物の整備やダイカストマシンの移設などを推進中で2013年3月ごろに完了する予定です。

海外生産拠点の強化として、2011年3月期において以下のように工場の新設・拡張を行い生産設備の増設を実施いたしました。

- メキシコ：鋳造工場増築、金型工場新設
- 中国（広州）：金型工場新設、ダイカスト第二工場第二期工事着工
- インド：鋳造工場・加工工場増築

更に、中国では2011年7月より広州拠点に加えて安徽省合肥市にてダイカスト生産を開始いたしました。成長著しい中国市場において広州工場だけでは不足する供給力を合肥工場にて対応してまいります。

2020年には9500万台を超えと言われる自動車の世界需要拡大により今後ダイカスト需要は成長市場を中心に急速に増加する

と思われます。しかし、大型で難易度の高いダイカスト製品を世界の主要需要地各地で供給できるダイカストメーカーは大変限られています。

私たちは、①品質基盤の強化、②人材の育成、③グローバル標準の整備、④海外子会社運営システムの構築と運用、⑤リスクマネジメントを2010年からの三カ年計画の柱として推進しております。これらの基盤の整備を進め更に海外拠点の強化を行い、お客様に信頼されるグローバルパートナーとなる事を目指しております。

引き続き皆さまのご理解、ご支援をお願いいたします。



代表取締役社長
最高執行責任者 高橋 新

10-12中期経営計画

「更なる飛躍に向けて品質を中心とした基盤強化」

当社グループの長期的な経営の方向性を示した「10年ビジョン」をベースとしつつ、グローバル需要拡大に対応すべく中国・メキシコを中心とした海外ダイカスト事業の拡大、国内需要の縮小を見据えた効率的な生産体制の確立を進めると共に、更なる飛躍に向けて品質を中心とした基盤強化の方針を「10123カ年アーレスティ方針」として掲げ、経営資源を最大限に活用し、全従業員が積極的に活動し、計画達成を目指して全力で取り組みます。

①グローバル飛躍のための品質基盤強化

お客様の信頼と期待に応える品質の製品を提供するため、設計から出荷までの各工程において、不良を作らない・流さないための管理技術・固有技術を高める施策を展開し、品質システムの向上、顧客満足度の向上を目指し、すべてのプロセスで品質を自己完結とする基盤強化を進めます。

②プロが育つ環境づくりと自律的成長

グローバルでの競争激化が予想される厳しい環境下において、社員一人ひとりがプロとしてアーレスティウエイを実践し企業成長を支える人材に成長できる環境づくりと品質教育を始めとした能力クラス別専門教育などの施策を進めます。

③グローバル業務標準の整備

効率の良い組織と機能の実現のため、グローバル標準の整備等の施策を進めます。

④海外子会社運営システムの構築と運用

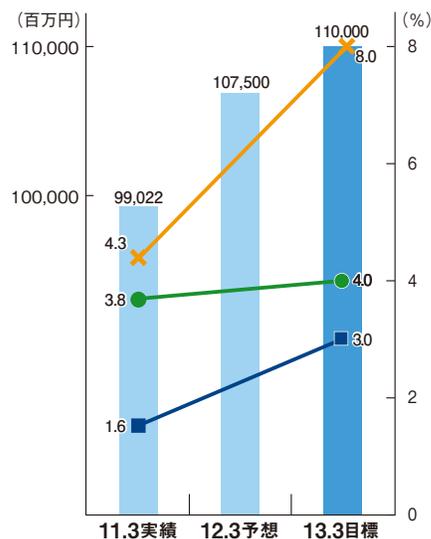
海外事業比率が高まる中、海外事業展開の基盤を強化するため、海外子会社における経営・営業・製造機能の充実と本社における統括・支援機能の強化を図る施策を進めます。

⑤リスクマネジメント

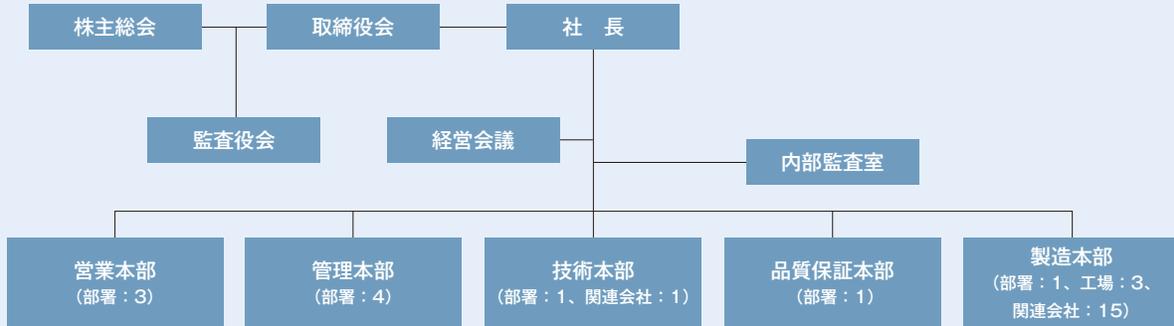
事業継続マネジメントの構築と事業継続計画の策定・推進を進めます。東北地方太平洋沖地震の経験を踏まえ、事業継続計画の見直しを行います。

■ 10-12中期経営計画の目標値

■ 連結売上高 ■ 売上高営業利益率
■ 総資産当期純利益率(ROA) ■ 自己資本当期純利益率(ROE)



アーレスティグループは、営業本部、管理本部、技術本部、品質保証本部、製造本部の5本体制を採用しています。



グローバルでの飛躍を期し、人財育成、標準化の推進により 強固な事業基盤を確立



取締役専務執行役員
管理本部長 古屋 茂

2010年度は、世界同時不況後の経済環境が回復する中、急速に展開しつつある自動車産業のグローバル化に対応し、海外への積極的な投資と原価低減活動を進め、増収増益を果たすことができました。一方、3カ年計画の初年度として、ものづくりの基盤となる人財の育成を目指した教育体系の見直しと確立、グローバル標準化の推進を行い、基盤整備のスタートを切りました。

2011年度は、ものづくり基盤整備の2年目として

全職位を対象とした品質教育の再構築とその推進、並びにすべての職務におけるプロを育成するために専門教育体系の確立と推進を図ります。さらにグローバル標準化の組織的推進を図ることでグローバル企業として躍進するゆるぎない基盤を築いてまいります。

グローバルアーレスティの品質システム向上を推進し 顧客からの期待に応える

2010年度から始まった1012アーレスティ3カ年方針では、「グローバル飛躍のための品質基盤強化」を最重要課題と位置づけ、取り組んでいます。施策の1つである後工程不良削減活動では、拠点によりばらつきがあるものの効果が出ておりPDCAをまわしながら全社への水平展開を進めています。また、品質システム向上活動においては、「あるべき姿による工程監査」から抽出された弱点の改善を行い確実にレベルアップできる仕組みを強化し

取締役専務執行役員
品質保証本部長 石丸 博

たいと考えています。さらに、日本でのTS16949認証取得に向けた標準類の整備を確実に進め、グローバルアーレスティの品質システムを向上させ顧客からの期待に応えられるよう活動してまいります。



ものづくりの基本をはっきりさせて 工程のなかにつくり込み 良いものをつくることを追究していきます

取締役専務執行役員
製造本部長 野中 賢一

アーレスティには、長い歴史があります。その中で多くのものづくりの基本が培われ受け継がれています。「技術のアーレスティ」としてお客様の信頼を得られています。

米国、タイ、中国、メキシコ、インドとグローバルに大きな飛躍・発展をしつつあります。「常に生きいきと活動し 理論と実験と 創意と工夫を尊重して 品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう」この経営基本方針を実践して、いま「も

のづくりの基本をはっきりさせて、工程のなかにつくり込む」ことをしていきます。良いものを製造するための条件を明確にするために、情報を分析・洞察して知識にし、さらに知恵を働かせることをします。最も肝心なことは「人の働き」です。現場の標準作業をもとに観察すること、作業する人の意見ややり易さを採り入れて、ものづくりの喜びを感じられ、生きいきと働く現場づくりを目指していきます。



HEV、EVの技術・製品開発、グローバルでの製品開発に注力

常務執行役員
技術本部長 三中西 信治



2010年度の当部門は、国内はHEV、EVをターゲットにした製品開発を中心に活動し、海外受注品の製品開発は、小型車向けの既存のエンジン部品やミッション部品を中心に活動しました。特に海外向けの部品群は、既存の機能は残しつつ小型化する訳ですから、顧客における設計空間の成立とダイカストの生産性を両立させる為に、顧客設計との打ち合わせを密に行いました。一方、HEV、EVに関しての技術革新は目覚しく必要とされる機能が大きく変化してい

きますので、材料の選定や形状提案を中心に少し先を考えた開発を心がけました。今後も、絶え間ない情報収集とタイムリーな提案に努めていきます。また、足回り製品を中心とした弊社東松山工場の生産性向上に参画し、残った技術課題解決の活動を実施しました。現場の改善と技術課題解決の進捗によって生産性向上の目標値がほぼ達成しました。今後は、新規製品の生産準備活動に力を注いでいく予定です。

教育システムの構築と標準類の整備を行い、グローバル人材の 早期育成と業務効率の向上を目指す

常務執行役員
営業本部長 金田 尚之

東日本大震災により一時停滞した自動車生産は、自動車工業会はじめメーカー各社の努力により予測よりも回復が早まり当社においても受注回復が前倒しに進み、下期にかけては国内での更なる増産が見込まれています。しかし、中長期的には国内自動車市場の縮小や円高により、国内ダイカスト需要は縮小していくと予測されており、更に震災で問題となったサプライチェーンの課題を受け、部品調達や生産の現地化推進スピードが加速することも予想されます。

一方、海外では欧米の財政危機や中国の成長鈍化等の不安要因はあるものの、新興国を中心にダイカスト需要は一層増加することが予測されます。このような環境をにらみ、営業本部では顧客のグローバル成長戦略に貢献するため、グローバル人材の早期育成と標準化推進による業務効率の向上を推進します。提案力とスピード感のある営業活動により、更にお客様のお役に立てるよう邁進してまいります。



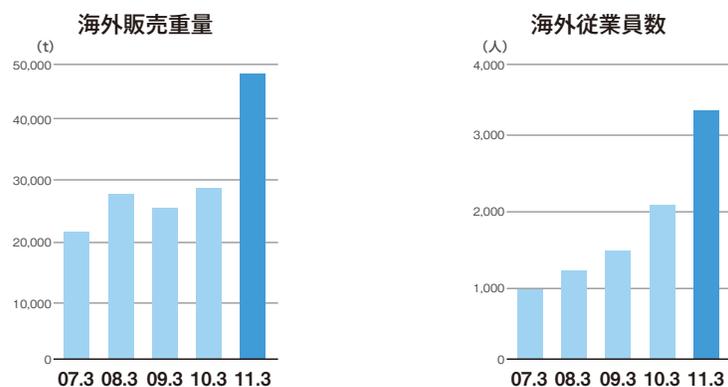
世界中のお客様のニーズに対応するため、積極的にグローバル展開を推進しています

より早く効率的にお客様に製品を安定供給するために、アレスティは積極的に海外展開を推進しています。アメリカ オハイオ州ウィルミントンに次ぎ、中国広州、中国合肥、メキシコ、インドにもダイカスト製造工場を設立し、順調に生産量を拡大しています。これまで培ってきた技術とノ

ウハウをそのまま活かし、高品質な製品をグローバルで製造・販売しています。また、タイ、広州、メキシコの金型拠点も含め、材料・金型・ダイカストなどすべての事業において相互補完体制を構築し、グローバルかつグループ・ワイドでの全体最適の実現を目指しています。



海外販売重量／従業員数推移





●Ahresty Wilmington Corporation

1989年から北米の拠点として機能。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,500トン。

2627 S.South Street, Wilmington, Ohio 45177, U.S.A.



●広州阿雷斯提汽车配件有限公司

2004年度に操業開始。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は2,000トン。

中華人民共和国広東省広州経済技術開発区永和経済区新豊路7号



●合肥阿雷斯提汽车配件有限公司

2011年度操業開始。中国第二の製造拠点として、ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っていきます。

中華人民共和国安徽省合肥経済技術開発区青龍潭路2295号



●Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

2007年度操業開始。米国のAhresty Wilmington Corporationとの生産補完により、ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,700トン。

Calle Industria Automotriz #20
Complejo de Naves Industriales la Zacatecana
Guadalupe, Zacatecas C.P.98600



●Ahresty India Private Limited

2008年度操業開始。海外第4の拠点としてダイカスト製品製造・機械加工を担っています。月産能力は500トン。

Plot No. 194, Sector 4, Phase-II Growth Centre, Bawal, Rewari, Haryana, India

国内主要拠点



東松山工場
〒355-0812
埼玉県比企郡滑川町大字都25-27
TEL.0493-56-4421



熊谷工場
〒360-8543
埼玉県熊谷市御稜威ヶ原284-11
TEL.048-533-5161



東海工場(浜松)
〒433-8520
静岡県浜松市中区小豆餅4-14-1
TEL.053-436-2111



東海工場(豊橋)
〒441-3153
愛知県豊橋市二川町字東向山80
TEL.0532-41-0511



株式会社アーレスティ山形
〒992-0832
山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥乙65
TEL.0238-85-5233



株式会社アーレスティ栃木
〒321-0215
栃木県下都賀郡壬生町大字壬生乙4060
TEL.0282-82-5111



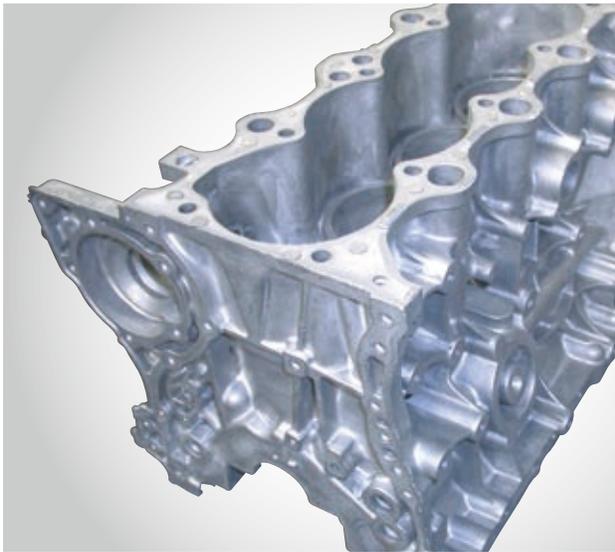
株式会社アーレスティ熊本
〒869-0521
熊本県宇城市松橋町浦川内36
TEL.0964-33-3111



テクノカルセンター
〒441-3114
愛知県豊橋市三弥町中原1-2
TEL.0532-65-2170

ダイカスト

他社に先駆けて新技術を開発 ダイカスト業界でトップレベルの信頼を獲得



アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともに事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。

多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を次々と開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。

今後も、アルミニウムダイカスト、マグネシウムダイカストにおいて、軽量化、リサイクルを通して環境保護に貢献できるように、さらなる技術革新を目指していきます。

主要なダイカスト製品

アーレスティが生産するダイカスト製品の8割は四輪自動車の部品です。その他に、オートバイ、発電機や船外機部品なども製造しています。

- アルミダイカスト製品
 - ・エンジン用
 - ・トランスミッション用
 - ・足回り部品 など
 - マグネシウムダイカスト製品
 - 金型鋳物製品(グラビティーダイカスト)
- その他
- ダイカスト用金型
 - ダイカスト周辺設備
 - 中古ダイカストマシン再生販売

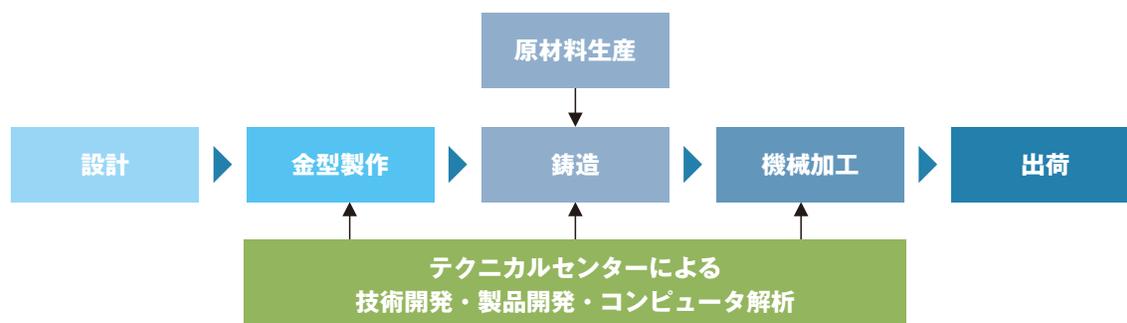
ダイカスト製品の特徴

ダイカストのダイ(Die)は金型、キャスト(Cast)は鋳物を意味しますが、一般的な意味のダイカストは、金型を用いて高速、高圧鋳造した鋳物やその製法を表します。

ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さと寸法精度に優れており鋳肌が美しいことです。

表面が滑らかな製品を製造することができるため、その後の加工処理が少なく済む利点があります。ダイカストのそのような特徴から複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

アーレスティのダイカスト生産体制 ～原材料生産から機械加工までの一気通貫生産体制～



今期の業績報告

【ダイカスト日本】

国内では、主要販売先である自動車業界においては、国内自動車販売は、環境対応車購入時の補助金終了の反動や東日本大震災の影響で前年実績を割り込んだものの、国内自動車生産は堅調な完成車輸出に支えられ前年実績を超えました。その結果、当社においても受注が増加し、売上高は65,624百万円(前期比18.4%増)となりました。

収益面においては、増収効果により、セグメント利益は1,929百万円(前期はセグメント利益26百万円)となりました。

【ダイカストアジア】

ダイカストアジアの主力である中国では、政府の購入支援政策等を追い風とした好調な自動車販売により、当社においても受注が高水準で推移しました。インドでも同様に受注が増加したことに加え、新規顧客への部品供給も始まったことにより、売上高は11,666百万円(前期比114.6%増)となりました。収益面においては、主に増収効果により、セグメント利益は723百万円(前期比151.6%増)となりました。

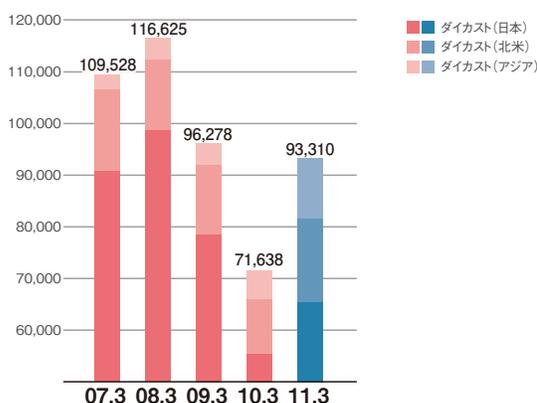
来期への展望

中長期的には、少子高齢化などに伴う国内自動車販売の減少、為替リスク回避などに伴う海外自動車生産の増加などにより、国内ダイカスト需要は横這いまたは縮小するものの、新興国を中心とした自動車需要の増加、先進国における需要回復、軽量化によるアルミダイカスト採用増によりグローバルでのダイカスト需要は拡大していくものと見込まれています。

【ダイカスト北米】

北米では、自動車販売が回復基調にある中、主要顧客からの受注も回復し、更にメキシコでの新規顧客への部品供給も始まったことにより、売上高は16,020百万円(前期比48.8%増)となりました。収益面においては、増収効果、原価低減活動を推し進めたことにより、セグメント利益は1,029百万円(前期比99.7%増)となりました。

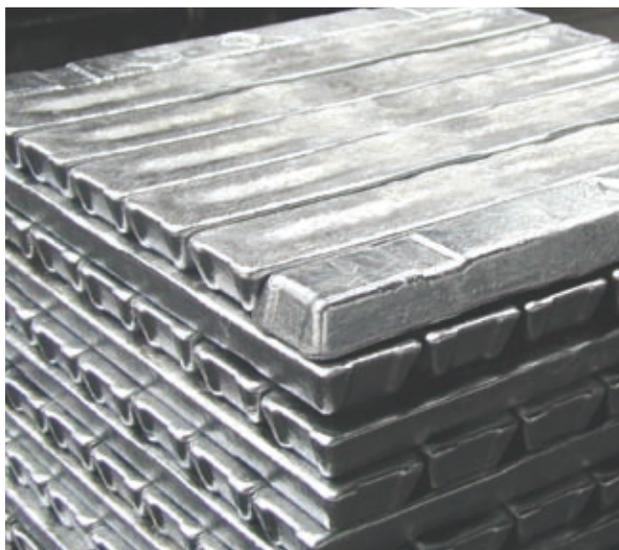
売上高推移
(百万円)



当社におきましてもアジア、メキシコでの海外事業拡大のための投資を継続しつつ、生産性の改善、コスト低減活動を推進していきますが、2011年度は、東日本大震災の影響および、先行投資等の影響により利益面では減益を余儀なくされています。

アルミニウム合金地金

業界トップクラスの設備とノウハウで、 多様な材料から高品質の製品を生産



アーレスティ熊谷工場は、1958年、業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場に認定され、1997年には、改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として、全国で初めて通産省から認定を受けました。アルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなど、多様な原料をもとに機械的性質に優れたアルミニウム合金地金を生産しています。アーレスティが持つ最新の設備、卓越したリサイクルのノウハウによって、工業用地金として活用されています。アルミニウムインゴットの月産能力は3,000トン。日本各地へと出荷され、高い信頼を得ています。

今期の業績報告

アルミニウム事業においては、受注量は価格競争等の影響により前年と同程度の量に留まりましたが、地金市況が上昇したことによって、売上高は3,524百万円（前期比31.1%増）となりました。収益面においては、原価低減活動を推し進めたことによる効果が得られたものの、セグメント損失は13百万円（前期はセグメント損失188百万円）となりました。

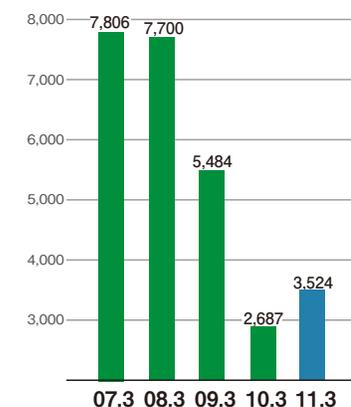
来期への展望

東日本大震災の影響により、4-5月は受注減に伴う生産減少を余儀なくされましたが、6月に入ってから受注状況は急速に回復しています。ただし、東京電力管内の15%電力削減対象事業所となっていることから7-9月は生産面での抑制を強いられる可能性が高く、上期は前年同期比で85%前後の生産量に留まるものと予測され、採算面でも厳しい状況

に置かれることが予想されます。

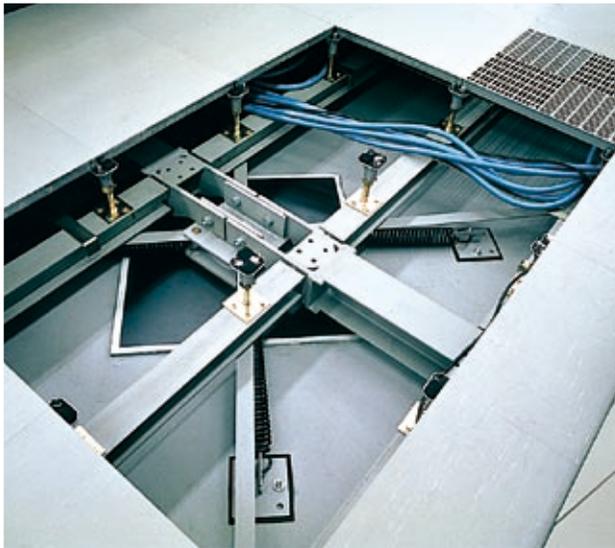
下期につきましては、各社で上期マイナス分の挽回計画が打ち出されており、当事業においても高負荷での生産対応が続くものと予想されますので、生産性向上や業務効率改善活動に尽力し収益改善を図るべく対応していきます。

売上高推移
(百万円)



完成品

各方面で導入が進むフリーアクセスフロア時代のニーズに応じて次々と新製品を開発



1962年、アーレスティは日本で最初のアルミニウムダイカスト製のフリーアクセスフロアパネル「モバフロア」を開発しました。フリーアクセスフロアとは、配線・配管を床下に納める二重床システムのことです。一般オフィスや病院などに幅広く利用されていますが、当社では特に半導体生産工場などのクリーンルームやデータセンター、コンピュータールーム用フロアパネルに注力しています。

今期の業績報告

完成品事業においては、延期となっていた半導体関連企業の設備投資が再開されたことに加え、首都圏を中心としたデータセンター、大手金融機関の電算機室等の受注により、売上高は2,186百万円（前期比50.7%増）となりました。収益面においては、増収効果によりセグメント利益は84百万円（前期はセグメント損失123百万円）となりました。

来期への展望

データセンター市場については、企業のリスク分散のための地域分散化が進むと予測され、国内市場の拡大が期待されます。

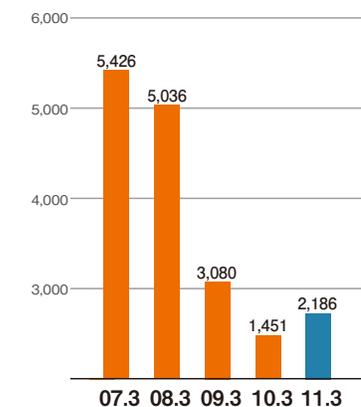
一方、クリーンルーム市場については、先行きの不透明感はあるものの、スマートフォンやタブレット端末向けを中心とし

た中小型液晶市場が広がりつつあり、電気メーカーの設備投資増強に伴う市場拡大に期待しております。

また、海外市場については長期的に見て東南アジアを中心に市場拡大が今後も予測されます。

これら各々の市場に対し販売強化を図る考えです。

売上高推移
(百万円)



環境負荷をできるかぎり減らす努力を重ね、「環境にやさしい企業」を目指しています

アーレスティでは、美しい地球環境を守るために、私たちが持つ技術の応用、環境に配慮した製品づくりなどの面から、一步一步環境保全活動を続けています。原料からつくる場合の約3%のエネルギーで再生できるアルミニウムは「リサイクルの優等生」と呼ばれ、自動車の軽量化を通してCO₂削減に貢献するなど、環境にや

さしい性質を持った金属です。

私たちは循環型社会を推進するリサイクル事業と、廃棄物ゼロ活動や省エネ・省資源、LCA(Life Cycle Assessment)などに積極的に取り組むことによって「環境にやさしい企業」の実現を目指しています。

ISO14001 認証取得



下記の事業所等で ISO14001:2004 認証を取得し、環境保全に貢献しています。

ISO14001:2004 認証取得

本社、熊谷工場、東松山工場、東海工場(浜松)、東海工場(豊橋)、テクニカルセンター、株式会社アーレスティ栃木、株式会社アーレスティ熊本、株式会社アーレスティ山形、株式会社アーレスティプリテック、株式会社アーレスティダイモールド浜松、株式会社アーレスティダイモールド栃木、株式会社アーレスティダイモールド熊本

エコアクション21

環境マネジメントの仕組みを未導入のグループ会社は、環境への取り組みを拡大するため、ISO14001 と比べると比較的導入が容易なエコアクション 21 の導入を進めています。



エコアクション21
認証・登録番号 0003801

0003801
株式会社アーレスティテクノサービス

環境・社会報告書2011

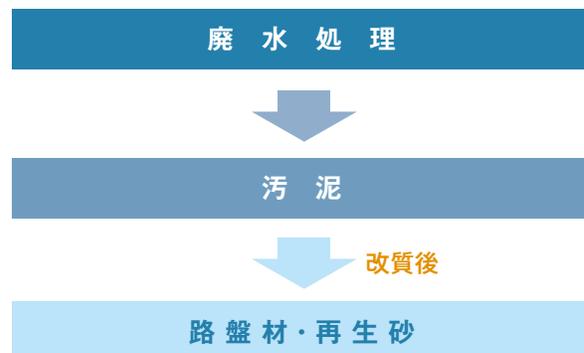


アーレスティでは、毎年、環境・社会報告書を発行しています。事業活動を通じた環境への取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう努めています。

環境保全への配慮

廃棄物ゼロ工場を目指し、廃棄物再資源化に取り組んでいます。従来埋め立て処分されていた汚泥を、路盤材や再生砂にリサイクルできるようにしたことが一例です。

リサイクル一例



社会に貢献していく企業であるために… そのための努力を絶えることなく続けていきます

アーレスティでは、全従業員が社会貢献の重要性を認識し積極的に諸活動に参画する企業風土を構築するため、従業員の社会貢献活動を支援しています。工場や営業所周辺の美化活動や近隣河川のクリーン活動、間伐や植栽等の森林整備を行う里山ボランティアや森づくり活動の企画推進の他、従業員が社外団体で福祉活動や献血などに

対しても、これらを行った社員に対しアーレスティエコポイントを付与し、表彰しています。

私たちは企業市民として積極的に社会貢献活動に参加し、地域社会との交流を通して地域の活性化に協力していきます。



近隣河川のクリーン活動への参加（アーレスティテクノサービス）



フラワーロードおよび河川アダプト活動（アーレスティ山形）



アーレスティの森作り活動（関東地区）



梅田川ふれあいクリーン作戦（東海工場（豊橋））



岩屋緑地里山づくりボランティア（東海工場（豊橋））



遠州灘海岸清掃活動への参加（アーレスティダイモールド浜松）



工場周辺地域の清掃活動（アーレスティ栃木）



本社周辺清掃活動

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、顧客・株主／投資家・従業員・取引先・社会という「すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業」を目指すためにも、企業価値の継続的な向上が重要であることを認識し「競争力の強化」「透明

性の高い健全な経営」の観点より、コーポレート・ガバナンスの充実を図りながら経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築するべく推進してまいります。

コンプライアンス

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、「コンプライアンス基本方針」を制定し、役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

また、コンプライアンス委員会事務局を設置し、企業活動を行うにあたって適用される法令をはじめ、企業倫理、社内規定を遵守する体制を強化しています。

コンプライアンス基本方針

- ① 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- ② 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- ③ 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- ④ 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- ⑤ 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- ⑥ 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- ⑦ 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- ⑧ 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動をします。
- ⑨ 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動をします。
- ⑩ 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。



アーレスティグループ行動規範

日常の業務遂行において遵守すべき基本的事項を定めた「アーレスティグループ行動規範」を制定しています。

- ① 法令等の遵守（規範の趣旨・遵守の責任に関する規定）
- ② 顧客・取引先との関係（自由競争と公正な取引等に関する規定）
- ③ 株主・投資家との関係（企業情報、インサイダー取引等に関する規定）
- ④ 従業員との関係（人権尊重、プライバシーの保護等に関する規定）
- ⑤ 会社財産・情報の管理（企業秘密、知的財産等に関する規定）
- ⑥ 社会との関係（寄付行為、政治献金等に関する規定）
- ⑦ 実施要領について

企業情報

会社概要 (2011年3月31日現在)

商号：株式会社アーレステイ
設立：1943年11月2日

資本金：51億1,759万円
従業員数：【連結】5,671名 【単独】1,002名

役員

■取締役および監査役の氏名(2011年6月23日現在)

代表取締役社長 最高執行責任者	高橋 新	取締役 専務執行役員	石丸 博	常勤監査役	熊木 勉
取締役 専務執行役員	古屋 茂	取締役 専務執行役員	野中 賢一	常勤監査役	見目 康夫
		社外取締役	宮内 忠一	社外監査役	早乙女 唯夫
				社外監査役	志藤 昭彦

株式情報 (2010年3月31日現在)

株式数および株主数

会社が発行する株式の総数：60,000,000株

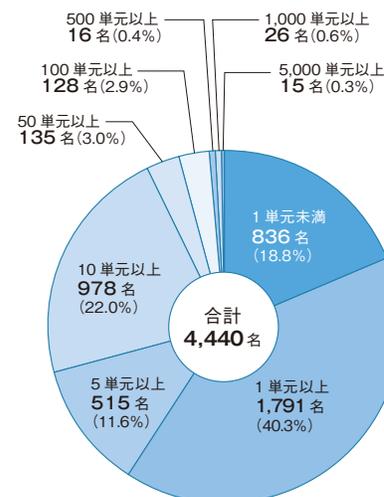
発行済株式総数：21,778,220株

株主数：4,440名

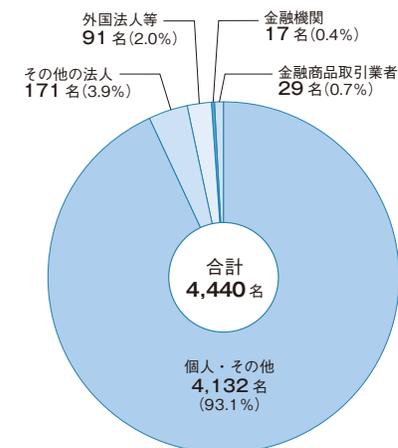
大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)
日本トラステイ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	1,032
高橋 新	915
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	816
株式会社三菱東京UFJ銀行	765
本田技研工業株式会社	672
日本トラステイ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	672
日本軽金属株式会社	657
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	647
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA HONG KONG BRANCH - CLIENT ACCOUNT	597
ザバンクオブニューヨークジャスティック ノントリーティアアカウント	589

所有株数別株主分布



所有者別株主分布





〒164-0011
東京都中野区中央 1-38-1
住友中野坂上ビル 11F
TEL.03-5332-6001
FAX.03-5332-6037
URL.<http://www.ahresty.co.jp>